

文芸 おまえざき

俳句 はまおか俳句会

逝きし子の声に振りむく返り花
暮れなむ砂場の声や半夏生
筆をもつ手元あかるき秋日和
秋日和硯の海に光る水
木枯らしの風に耐えてる蜘蛛の巣よ
目的も手段も一樣枯葉舞う
塩台風柿を落とせり秋淋し
終戦日六十七回目早きかな
艶やかな紫濃ゆき秋なすび
柿日和小国神社へてくてくと

久保八重
長嶋常子
宅野須美子
清水正恵
河原崎豊子

短歌 はまおか短歌会

捨てようとして捨てられぬ若き日の思い出滲む手作りの服
六センチの足蹴り上げて両の手に空を掴みて泣く新生児
瓢箪にゴーヤ朝顔競ひ伸び支柱を越えて空をさまよふ
これくらいはの仕合せで良い新春座敷直向き生きし生涯悔いなし
生きることは燃ゆることなり冬ざれの庭に炎え立つ寒椿かな
曾孫六人額の写真前にして思い膨らむ老ふ身忘れて
あきの陽は今しづやかに傾きて草ぬく手先目の見えるまで
拳式よりひと月経ちて里がえり娘の面は奥様のかほ
窓高く日除けと伸びし朝顔の青き花今朝もいくつも開く
今日もまた娘の車に乗りてゆく老い人となり病院通い

河原崎豊子
久保八重
長嶋常子
清水正恵

Books

図書館情報

PICK_01 一般

光琳ひと紋様



高任和夫／潮出版社

時は元禄。美の世界に取りつかれた一人の絵師がいた。その名は尾形光琳。師と仰いだ俵屋宗達の魂を受け継ぎつつ、絢爛豪華な作品を世に出した光琳の生涯を、京焼きの名手であり最大の理解者であった弟の尾形幹山と対比させながら描いた長編時代小説。

PICK_02 子ども用

お面屋たまよし



石川宏千花／講談社

妖面、なりたい姿になれるというそのお面は、面作師の中でも、腕のいい者だけが作れるのだという。しかし妖面は、お面を外せなくなれば荒魂化し、人として生きていくことができなくなる。それでも、耐えがたい思いに身を焦がす人々は、今日もお面屋を訪れる。

今月の新着図書

●一般

- 夜蜘蛛 (著者/田中慎弥)
- 国を蹴った男 (著者/伊東潤)
- 無花果とムーン (著者/桜庭一樹)
- 14歳からわかる生活保護 (著者/雨宮処凛)
- 魚のいない世界 (著者/マーク・カーランスキー)
- 本にだって雄と雌があります (著者/小田雅久仁)
- 訣別ゴールドマン・サックス (著者/グレッグ・スミス)
- 大卒だって無職になるー“はたらく”につまずく若者たち (著者/工藤啓)
- 国交正常化交渉 北京の五日間ーこうして中国は日本と握手した (著者/鬼頭春樹)

●子ども

- まるごと日本の道具 (監修/面矢慎介)
- パパとわたし (作/マリア・ウェレニケ)
- 雨ふる本屋の雨ふらし (作/日向理恵子)
- おべんとさんいただきます (作/堀川真)
- 英雄オデュッセウス (文/ジャン＝コーム・ノグス)
- 小さなミンディの大かつやく (文/エリック・A・キメル)
- 革命児たちの仰天!?情熱人生 (著者/アンヌ・ブランシャール)
- ケーブドリとモンドリアンドリ (作/ワウター・ヴァン・レーク)
- 100グラムのいのちーペットを殺処分から救う奇跡の手 (著者/太田京子)